

2017年度第6回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日時：2017年12月11日（月） 午後6時30分から午後9時10分
- 2 場所：立川市女性総合センターAIM 第1会議室（5階） （立川市曙町2-36-2）
- 3 議決権のある理事：8名
出席者：座間 直壯、田中ヒロ、手嶋孝典、堀渡、堀越洋一郎、矢崎省三
欠席者：清田義昭、齊藤誠一
事務局：蓑田明子

4 報告及び協議事項

（1）第1号議案 会員の動向について【報告】

- ・2017年12月1日現在
正会員88名2団体、賛助会員45名1団体、計133名3団体（合計136）
- ・会費入金状況 12/8現在の未納者 正会員9名 賛助会員11名
未納会員には、次回「通信」発送時に会費納入のお願い文と、振込票を同封する。

（2）第2号議案 第31回多摩デポ講座：『見学会「印刷博物館」と「キンダーブックの90年」展』について【報告】

- ・前回の理事会時には見学会の企画が確定できていなかったが、印刷博物館に見学に行き、併せて同館で開催中の企画展「キンダーブックの90年」も見学する。
日時：12月17日（月） 午後1時30分にJR飯田橋駅東口集合
会場：印刷博物館（文京区水道1-3-3 トッパン小石川ビル 地下）
- ・団体見学予約を15～20名の予定で行い、冒頭の展示案内と館内にある印刷工房の「知るコース」見学を依頼した。その後、同博物館から下記のような予定を組んであると連絡が入っている。
午後2時～2時30分 プロローグのアテンド
午後2時30分～4時10分 館内の自由見学
午後4時10分～4時30分 印刷工房見学「知るコース」
- ・講座案内チラシ、『多摩デポ通信』記事、ML等で広報を行った結果、現在、理事・事務局員を除いて10名の方の申し込みが入っており（うち会員6名）、理事、事務局員の参加は5名である。今後の申し込み追加、当日参加を見越しても、参加者は15～20名程度かと思われる。
- ・集合場所からは徒歩で（13分程度）博物館にむかう。案内される以外の時間は館内を自由見学とし、最後は現地解散の予定。
- ・開館時間は午後6時までであり、公共交通はJR飯田橋よりも近い地下鉄駅が数か所ある。

（3）第3号議案 第3回TAMALAS地域説明会について【報告】

- ・第3回TAMALAS地域説明会の予定が確定した。
- ・2018年2月14日（水）午後2時～4時30分で、京王線沿線七市の共同研修会として、調布市文化会館たづくり9階研修室で行う。
- ・多摩デポには日野市立中央図書館の飯倉館長から、資料保存の現状や課題をめぐる講義と（株）カーリルによるシステムの説明を1時間程度ずつ行ってほしいと、依頼が来ている。
→ 事務局で調整する。
- ・（株）カーリルには連絡済み。前日の夜には、共同研究の定例会を行うことになった。

- ・七市が終われば説明会の未実施は西多摩地域、武蔵野、三鷹市、小金井市、狛江市となる。西多摩地域の開催が次の課題となろう。

(4) 第4号議案 2018年度通常総会の総会記念講演会の企画について【報告・協議】

- ・次年度は、多摩デポがNPO法人となって10周年の節目の年となる。
- ・塩見昇氏（前日本図書館協会理事長）を記念講演会の講演者として依頼することを提案する。
- ・塩見氏は以前から多摩デポの賛助会員であるが、理事長が塩見氏と話す機会があり、塩見氏から、「蔵書保存は、図書館事業の経営の面からも大事な論点だと考える。多摩デポの活動には注目している」と励まされた。記念講演に、塩見氏の提言をお聞きしたいと考える。
 - この企画が承認された。
- ・ここ数年、講演者決定に大変時間がかかってきた。早めに決められるのは望ましい。
- ・「共同保存」についての図書館界の識者の見解が披露されれば、ブックレット化にふさわしい。
- ・総会の開催日であるが、会員への総会開催の提案、議案書の配布、委任状の回収という流れを考え、従来通り5月の中旬で考えると、5月20日（日）に国分寺労政会館で行う予定としたい。（会場予約は2/20以降。定員70名の会議室希望）
- ・講師謝礼および交通費については事務局で検討する。

(5) 第5号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・協議】

- ・12月5日（火）に国分寺労政会館の和室で、第28回の共同研究定例会を行った。
- ・協議事項として以下の三点が話し合われた。どの事項も継続的な議題であり、双方多忙により、進捗のテンポが遅くなっている。多摩デポ側でできることは、本理事会の機会も含め議論し、先を進めていきたい。

①大量一括処理のための処理画面の作成について

- ・具体的な処理画面の提案
- ・ダミーサイトの設置
- ・図書館への公開の前に、このシステムで得られる検索結果の検証が必要である、各自試して、研究会の場で報告・議論し、修正作業を行う必要がある。
 - (株)カーリルにシステムにアクセスできるように求め、研究会の前に各自点検作業をしていけるようにする。

②「TAMALAS図書館支援システム利用規定（案）」について

- ・第27回研究会で議論した「規定（案）」の修正版が出され、それを議論した。
- ・(株)カーリル吉本氏は、ほぼこれで了解とのことであった。
- ・多摩デポとして、本日の理事会で検討した結果、数か所の文言について、修正・意見が出された。これらを事務局で整理し、理事には修正版をMLで提案する。

③ISBNが付与されていない資料の同定について

- ・(株)カーリルが開発中の『(仮称)多摩デポ統合検索システム』の性能の検証
 - こちらは(株)カーリルからアクセスサイトが案内されているので、事務局員間の共同作業で検索・点検をする資料データを近く提案していく。2月の次回の共同研究会の時に、点検結果や見えた課題を持ち込めるよう、動いていく。
- ・西東京市図書館のISBN無し資料の同定作業時に作りかけている同定・判定基準の整理
 - 整理して(株)カーリルに参考にしてもらう。次回の研究会までの宿題となる。

※システムの性能の検証、処理画面のデザイン等の検討、「利用規定」の検討をしているが、そ

ろそろ、いつ、どう多摩地域の市町村図書館に提案していくかを検討する必要がある。

- ・次回定例会は、2018年2月13日（火）。

(6) 第6号議案 多摩デポ通信第45号の発行について【報告・協議】

- ・秋号である『多摩デポ通信』第44号は、例年から約一月遅れたが、11月18日に発行した。
- ・『多摩デポ通信』は季刊であり、通常総会の呼びかけをする春号（通常なら4月下旬に発行し、総会議案書を同封して発送）の前に、冬号を出す必要がある。
- ・例年なら1月中旬には発行しているが、今年度も遅くても2月中旬までには出しておきたい。
- ・そうすると発行時期は次の理事会開催時期と重なるので、本理事会で第45号の発行及び企画について、議論する必要がある。
- ・上記の趣旨で提案し、以下のように予定が決まった。

- ・発行時期：2018年2月初旬～中旬

記事予定：第31回多摩デポ講座（見学会）の報告、参加者の感想

多摩デポブックレット第11号『書物の時間—書店店長の想いと行動』感想

大量一括処理を含む「TAMALAS図書館支援システム」の公開

第32回多摩デポ講座の企画が決まれば講座案内

岐阜県の職員研修会での共同保存に関する講演の報告、同県での動き

ここ数か月間の共同保存問題に関する動き

第43号に掲載した平山顧問、堀越理事の提言への応答

(7) 情報交換

- ・都立多摩図書館の図書館長との懇談
 - ・4月に着任された都立多摩図書館の図書館長（古谷氏）と懇談するため、11月2日（木）午前10時30分～12時過ぎまで、都立多摩図書館に理事長、事務局長が訪問・懇談し、資料を渡してきた。都立図書館も市町村立図書館も共通する利用者への資料提供の役割、同様に向きあっている資料保存の課題、多摩デポが取り組んできたこと、都立図書館への要望等をお話した。趣旨は理解してもらえたと思われるが、具体的な話にはならず、再訪をお願いして終わった。
- ・岐阜県図書館協議会の岐阜地区研修会の講師として講演
 - ・岐阜県瑞穂市の図書館職員から、合同研修会で共同保存図書館について話してほしいとの依頼が来て、12月6日（水）午後に事務局長が話してきた。開館20年を迎える同図書館は除籍や保存のことが切実な課題になっている。2015年に堀が発表した『公共図書館の蔵書構築と共同保存事業』を読んだ。公共図書館が解決すべき優先度の高い共通の課題だと思うが、これまで岐阜県では共同保存の議論がされたことはなかった。県図書館協議会の岐阜地区（県内を6地区に分けたうちのひとつ、岐阜県立、岐阜市立を含む、5市3町で構成）研修会の幹事なのでこの問題を取り上げたい、とのことだった。共同保存問題の全国状況、取り組み方、東京都の事情、市町村立館長協議会の取り組み、多摩デポの経験等、全般的に話してきた。当日の参加者は14人だった。
- ・多摩デポホームページのアクセス分析、およびホームページの現状と課題について
 - ・資料に基づき、事務局より説明した。理事からは以下のような意見があった。
 - ・理事としてかかわる以前に内容は充実している印象を持っていた。だが、内容とは別に見え

方の工夫も必要である。例えばメニューを縦に並べるとスクロールしなければならない。上部に横に並べるといいのではないか。

- ・作業者が不足しているがボランティアでやってくれる人を探すのは難しいのではないか。
 - ・根本的には人的資源のことになるが、分担してやることも考えられる。
 - ・まず、以前からたまっているデータの処理を片付けたいと思っている。
 - ・新理事にはぜひアドバイスをお願いしたい。
 - ・そろそろTAMALASの一括処理システムの入口をどうするかを考えたい。
 - ・現行の一冊処理システムと名称、相関関係をそろそろ整理したい。対外的に説明する時やHPに掲載するために必要。
 - ・現在のTAMALASから入り、その中に分岐する個別処理と一括処理のボタンを作ったらいいのではないか。
 - ・(株)カーリルと相談しながら決めていく。
 - ・スマホ対応が必至。入りやすいサイト作りの対応を考える。
- ・創立10周年を迎える「NPO法人多摩デポ」の次年度以降の活動について
 - ・改定されたNPO法に対応するための、定款の改正も課題の一つ
 - 貸借対照表の公告が必要となる代わりに毎年度の資産変更登記が不要になった。定款で決めている公告方法(多摩デポでは、現在は「官報」)を変更する場合は、来年度の総会で定款変更が必要となる。具体的には事務局で検討中。
 - ・多摩デポブックレット第12号のためのテープ起こし、編集
 - ・永江朗氏の2017年度通常総会記念講演『図書館の「捨てると残す」への期待と不安』のテープ起こしが終了した(約1万3千字)。(前回の福嶋氏講演のブックレットになった最終テキストは約2万3千字)。今後、他の者も入って編集を進めていく。
 - ・平成29年度東京都多摩地域公立図書館大会の内容が決まり、広報が始まっている
 - ・スローガン「魅力ある図書館をめざして～地域へひらく図書館のはたらき～」
日程：2018年2月6日(火)～2月8日(木)
会場：すべて都立多摩図書館2階セミナールーム
 - ・今回は、大規模会の年にあたり、6つの分科会がある。
 - ・第6分科会(2月8日午後)は、協力担当者企画の『多摩地域の相互貸借と都立図書館』、講師は高木敦子氏(東京都立中央図書館 管理部長)

【多摩デポ記事】

- ・特になし

【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし

- ★ 次回の理事会 2018年2月8日(木) 午後6時30分～
- ☆ 次回の事務局会議 2017年12月16日(土) 午後6時30分～ 調布たづくり
- ★ カーリルとの共同研究 第29回定例会 2018年2月13日(火) 午後6時30分～

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、堀越洋一郎理事、矢崎省三理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2017年12月11日

議長

議事録署名人

議事録署名人